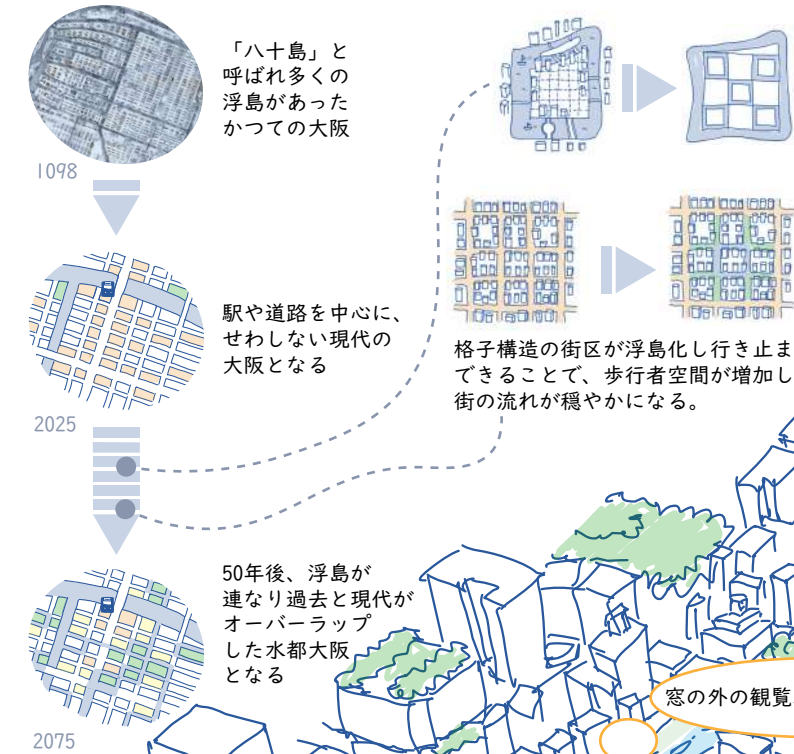


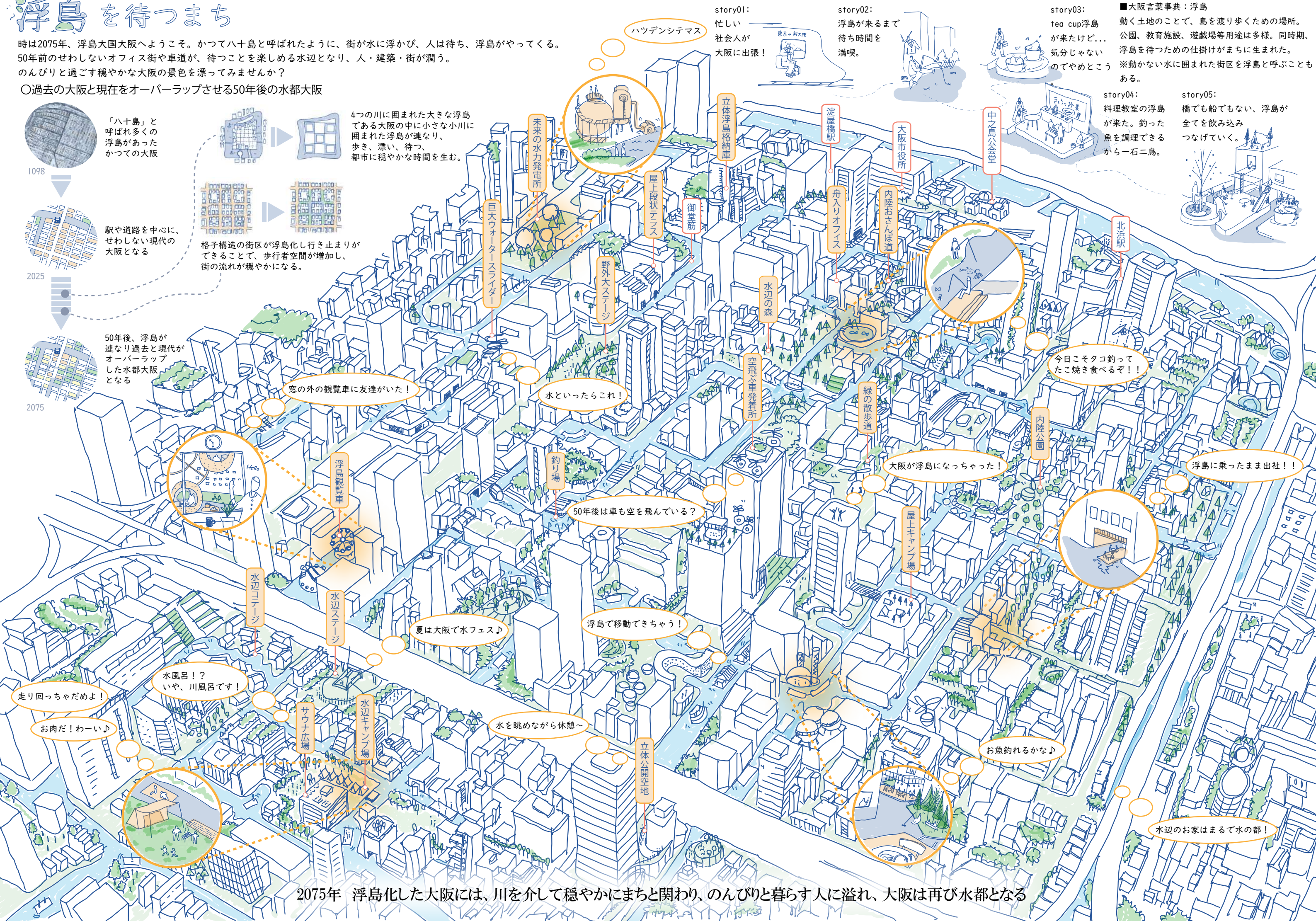
# 浮島を待つまち

時は2075年、浮島大国大阪へようこそ。かつて八十島と呼ばれたように、街が水に浮かび、人は待ち、浮島がやってくる。  
50年前のせわしないオフィス街や車道が、待つことを楽しめる水辺となり、人・建築・街が潤う。  
のんびりと過ごす穏やかな大阪の景色を漂ってみませんか？

○過去の大阪と現在をオーバーラップさせる50年後の水都大阪

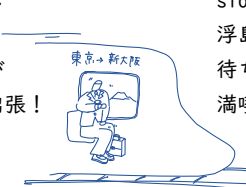


4つの川に囲まれた大きな浮島である大阪の中に小さな小川に囲まれた浮島が連なり、歩き、漂い、待つ、都市に穏やかな時間を生む。



story01:

忙しい  
社会人が  
大阪出張！



story02:

浮島が来るまで  
待ち時間を  
満喫。



story03:

tea cup浮島  
が来たけど...  
気分じゃない  
のでやめとこう



■大阪言葉事典：浮島

動く土地のことで、島を渡り歩くための場所。公園、教育施設、遊戯場等用途は多様。同時期、浮島を待つための仕掛けがまちに生まれた。※動かない水に囲まれた街区を浮島と呼ぶこともある。

story04:

料理教室の浮島  
が来た。釣った  
魚を調理できる  
から一石二鳥。

story05:

橋でも船でもない、浮島が  
全てを飲み込み  
つなげていく。



2075年 浮島化した大阪には、川を介して穏やかにまちと関わり、のんびりと暮らす人に溢れ、大阪は再び水都となる



# ひと・まち・建築が水と関り大阪を元気にする

ひと

水×待ち時間

水×遠くの景色

水×偶然の出会い

建築

水×舟入りピロティ

水×公開空地

水×屋上テラス

まち

水×格子状のネットワーク

水×車の通れない道

水×小水力発電

水×憩いの場へ転用

水×移動型の浮島

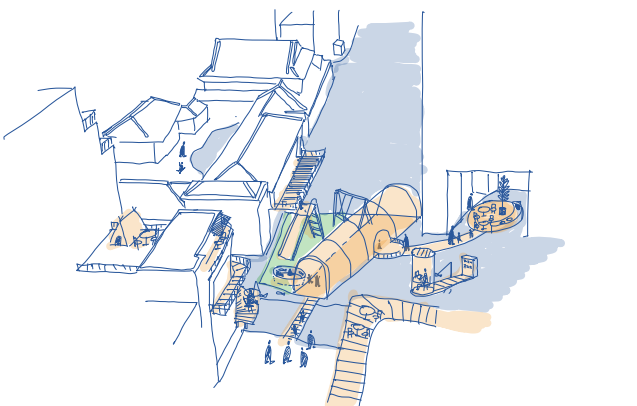
歩行者空間となる道路

公会堂へ向かう並木道の車道が、歩行者の公園になる。日常の中で水辺で待つ多様で楽しい場をつくる



幼稚園

大阪最古の木造幼稚園の2階から、すべり台をつたい公園浮島に着陸する園児たち。園庭は、遊水池として水害リスクへの防災機能も果たす。

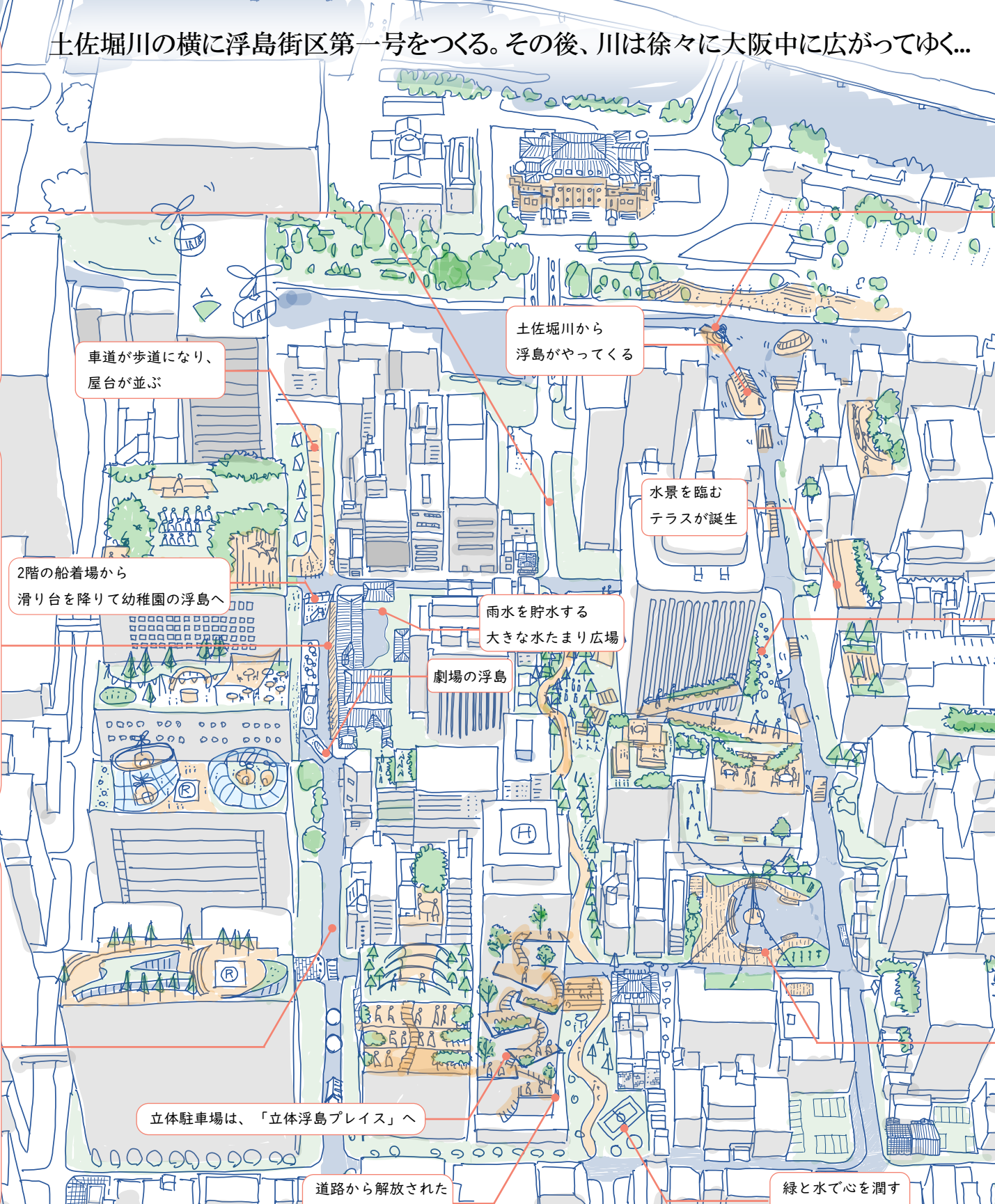


建物の低層の賑わい

大きな間口を舟入り場に变化し、日替わりで「カフェ」や「音楽スタジオ」になり、まちに新たな居場所をつくる



土佐堀川の横に浮島街区第一号をつくる。その後、川は徐々に大阪中に広がってゆく...



土佐堀川から浮島がやってくる

車道が歩道になり、屋台が並ぶ

2階の船着場から滑り台を降りて幼稚園の浮島へ

雨水を貯水する大きな水たまり広場

劇場の浮島

水景を臨むテラスが誕生

立体駐車場は、「立体浮島プレイス」へ

道路から解放された豊かなファサード

緑と水で心を潤すスポーツ広場

既存の川とのつながり

大阪を囲む大きな川と浮島が繋がり、一般の人だけでなく観光客も賑わう場をつくる



公開空地

「大きな歩行者空間」以上の価値がなかった公開空地が川に面することでイベント会場として街に様々な視点場をつくる



空地ロータリー

ただの空き地や駐車場が川に面することで、浮島の拠点となり人々がのびのび居られる場をつくる

